

★ループスのコンストラクション

- バギーに最適の前輪荷重の少ないR・Rシステムです。
- 鉄製熱処理済のベベルギヤミッション組込済の、アルミダイキャスト一体成型のリヤフレーム強化型ですから、組立、メンテナンスの容易さは随一です。
- リヤアクスルの駆動は、強化型の9.5mm巾のタイミングベルトで行い、しかも、リヤトレーリングアーム内に組込まれますから、十二分の耐久性を発揮します。
- フロントは、ダブルトレーリングアームで、新設計パーツによるセッティングにより、高速ほどアンダーになり、素晴らしい直進安定性、コーナリングをしめします。

- フロントトレーリングアーム、リヤトレーリングアームのストローク、接地角、バネレートのセッティングにより、路面にすいつくように走ります。
- シャーシは新設計のアルミ角棒の梯子型です。
- レーシングバンパーは、EVC製で障害物の乗り越えに威力を発揮します。
- STモデルとBASICモデルの2種があります。軸受のみ異なっています。
STモデル ポールベアリング
BASICモデル 特製鉄メタル軸受
軸受は、自分で交換することができます。

★ループス諸元 SPECIFICATIONS

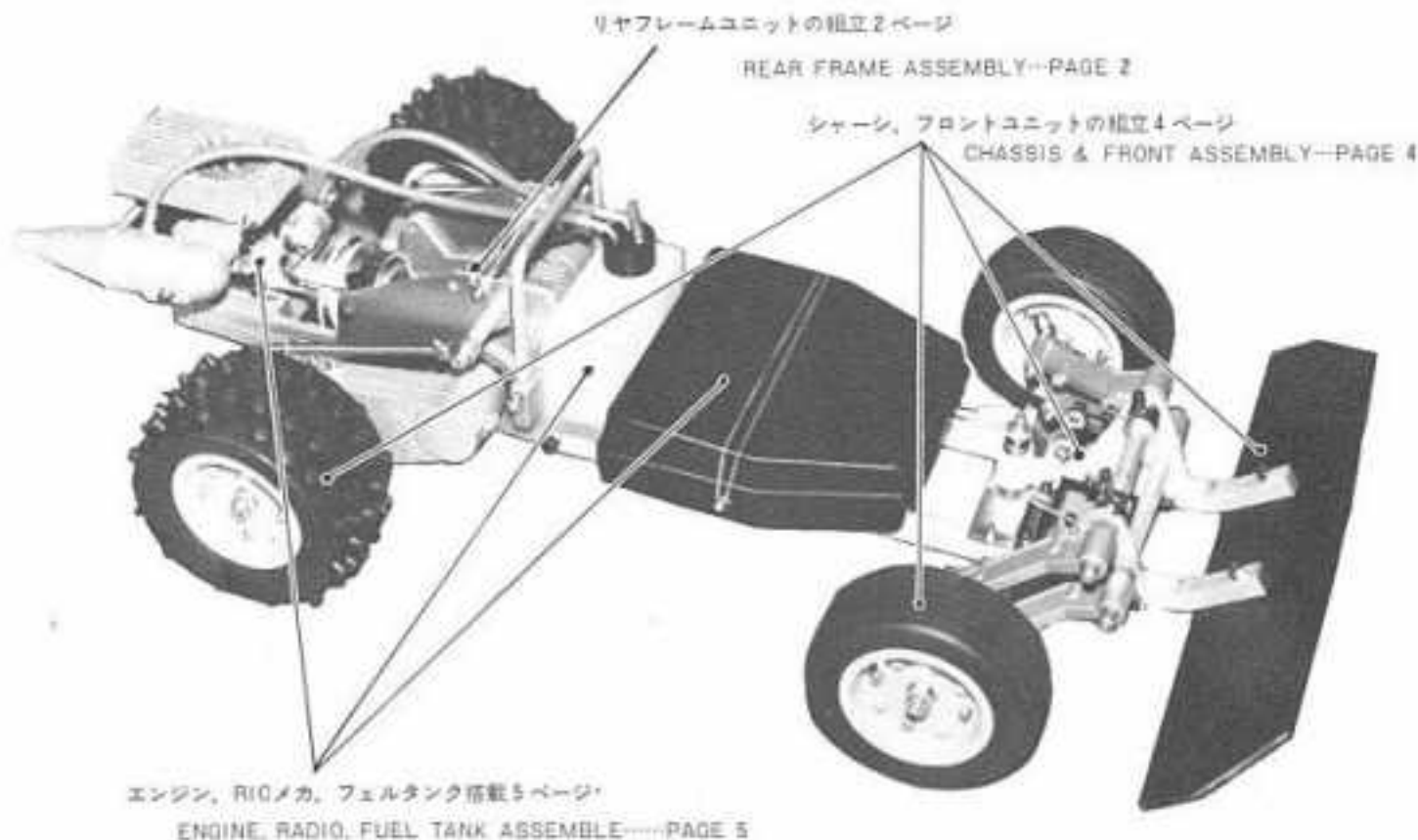
全長	TOTAL LENGTH	575mm
全巾	TOTAL WIDTH	290mm
全高	TOTAL HEIGHT	155mm
軸距	WHEEL BASE	310mm
軸距	FRONT TREAD	238mm
	REAR TREAD	230mm
地上高	ROAD CLEARANCE	45mm
減速比	GEAR RATIO	1:8
エンジン	ENGINE	19~21
メカ	RADIO	2CH 2SERVO

★工具・部品 TOOLS & PARTS

- ・カッターナイフ
 - ・丸ヤスリ
 - ・ドライバー④大小
 - ・ボックスレンチ3%150用
 - ・ハサミ
 - ・ラジオペンチ
 - ・キリ 三ツ目
 - ・耐水ペーパー#240~#360
 - ・接着剤
エポキシ接着剤、瞬間接着剤
ゴム系接着剤
 - ・油脂
グリス少量、マシン油
 - ・19~21エンジン、プラグ、ブレーキイン、キャブの調整をすませておいて下さい。
 - ・2チャンネル2サーボプロポ
 - ・燃料 アイエムAAAなどニトロ10%以上がよい結果
 - ・始動用具
ポンプ、ブースターコード、始動用電池
 - ・スターターモーターと電池
- 詳しくは、模型店にご相談のうえお求め下さい。

LUPUS シャーシ組立完成図

- ★組立は、説明書の順序に従って組立てて下さい。
- ★説明書は、写真とイラストのみで構成してありますから



★Please assemble, follow the instruction steps.

LUPUS COMPLETE SHASSIS

リヤフレームユニットの組立 ASSEMBLE REAR FRAME UNIT

★ビスナットは、下記のように表わしています。 Mark of Bolts, Nuts & Washers

普通ビス (Cross Head Bolts)	M 3 × 15 ↓ 3mm径 (Dia) 長さ (Length)
六角穴ビス (Hexagon Socket Bolts)	M 3 × 15S
セットビス (Set Screw)	M 4 × 4 SS

普通ナット (Hexagon Nuts)	M 6 N
ナイロン ナット (Nylon Bushing Hexagon Nuts)	M 6 NN
平ワッシャ (Plain Washers)	M 3 W
スプリング ワッシャ (Spring Lock Washers)	M 4 SW

Eリング 9φE
(E Type Retaining Rings)

(注) ナイロンナット以外は、全てロツ劑をつけてねじこんで下さい。

Note: Make use of Lock Cement, except Nylon Bushing Hexagon Nut.

STEP No. 1

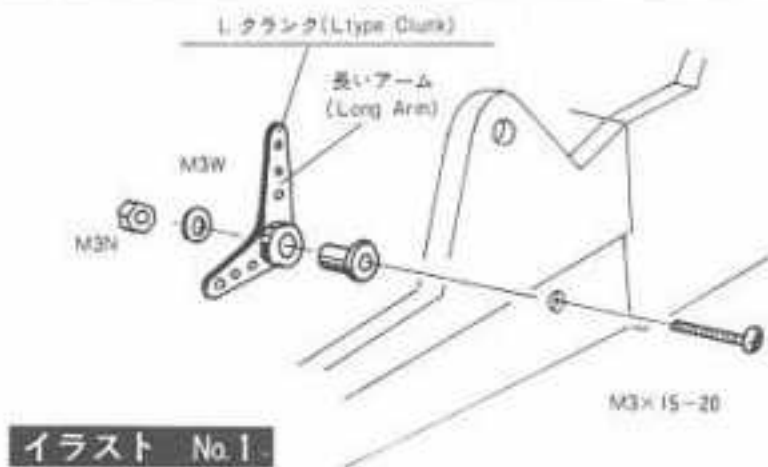
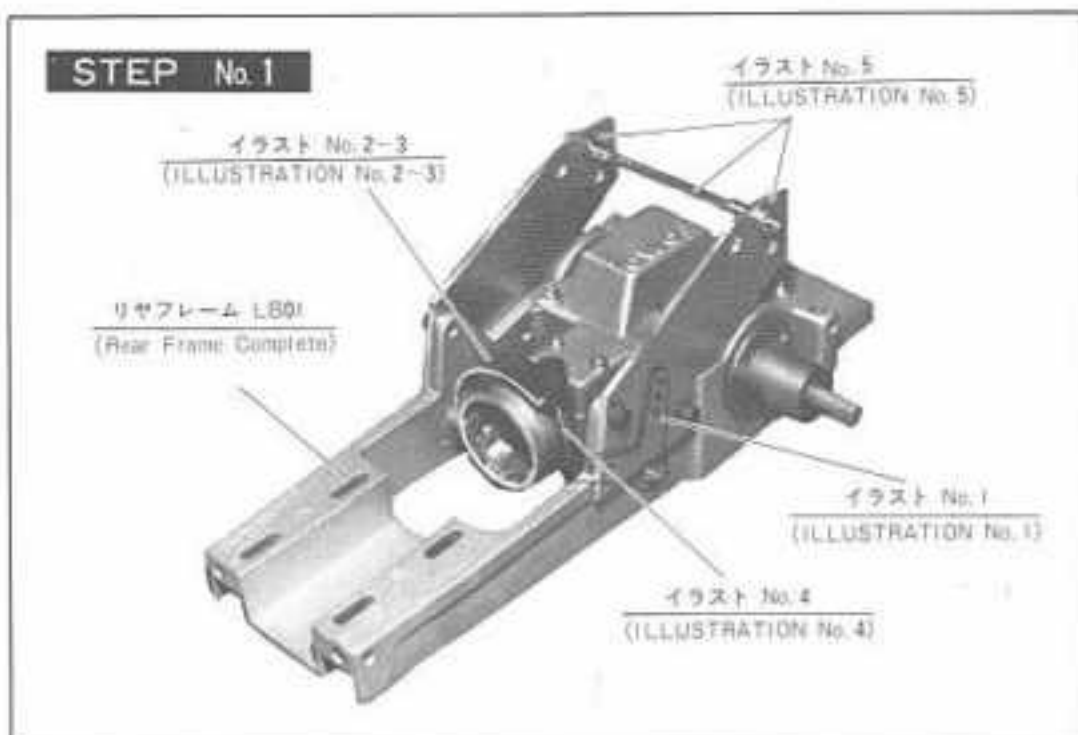


イラスト No. 1

イラスト No. 2

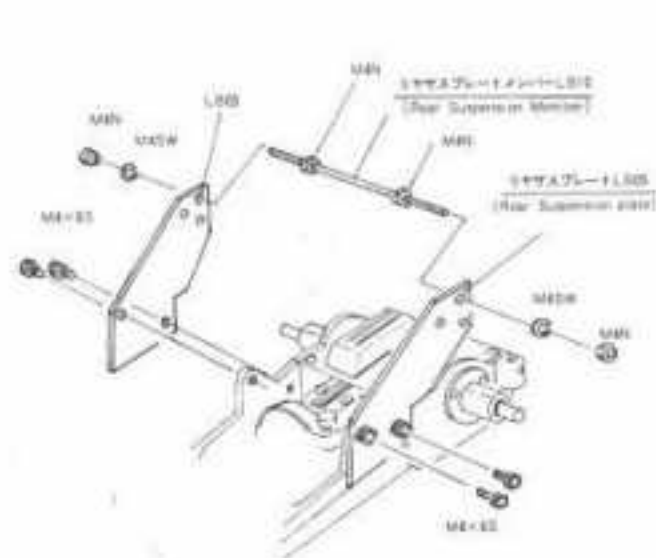


イラスト No. 5



イラスト No. 4

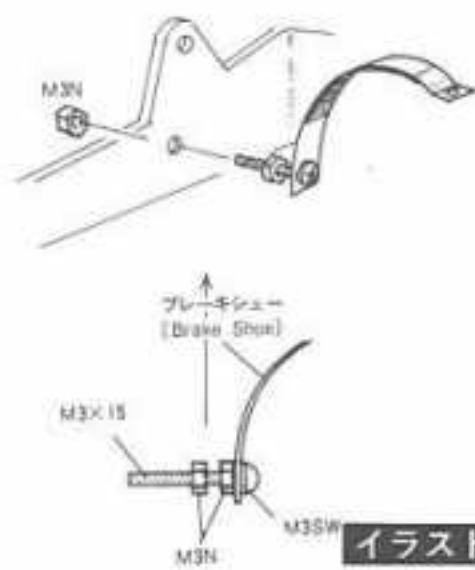
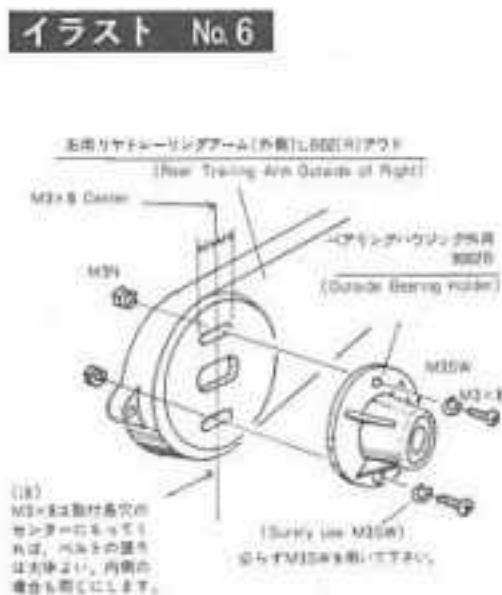
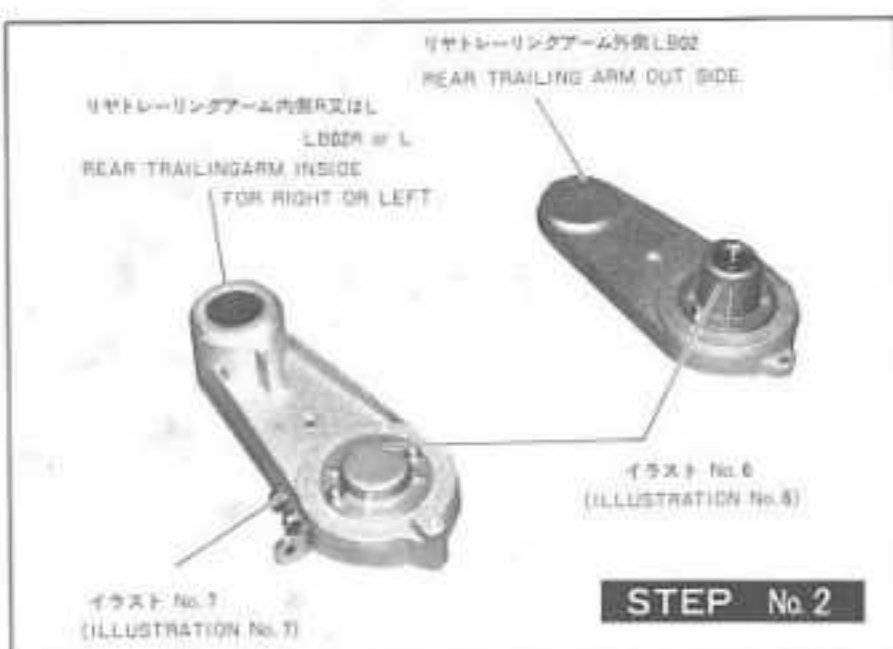


イラスト No. 3

イラスト No. 6



(注) M3 x 6は取付位置のセンターに合わせて下さい。M3 x 6の長さは必ず、内側の場合も同じにします。



STEP No. 2

イラスト No. 7



右側リヤトレーリングアーム(内側)LB02(R)イン (Rear Trailing Arm inside of Right)

STEP No.3

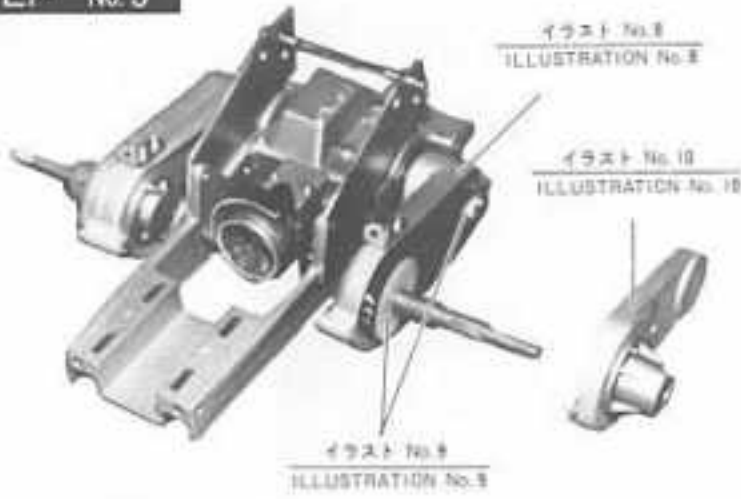


イラスト No.8

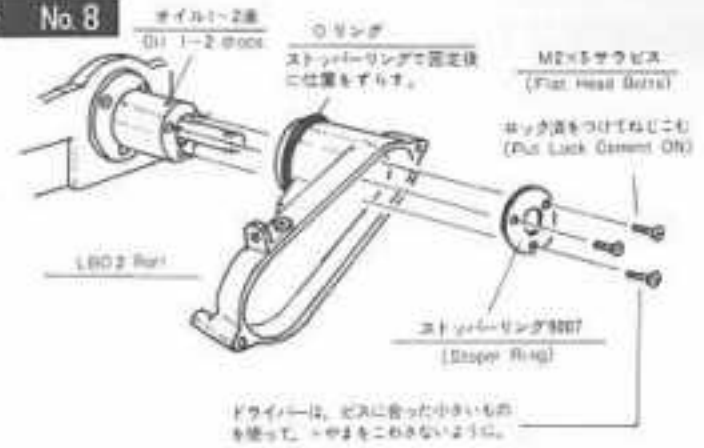


イラスト No.10

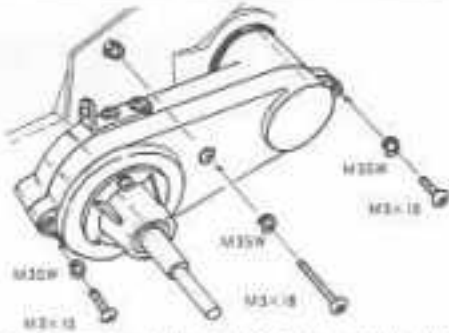
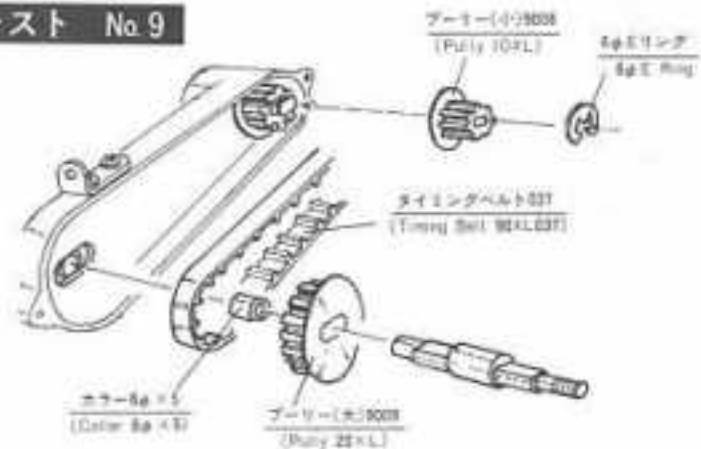


イラスト No.9



(注) ●リヤアックスをまわしてみ、重かったりした場合には、プーリー(次)の背面をペーパーでこすって下さい。
 Note: Please Sanding Pulley 20xi in case of pulley no rotating.
 ●ベアシックは、気持ちゆるくベルトを張って下さい。

●ベルトは、ピンに張った状態で軽くまわるところにセッティングして下さい。ゆるすぎる、ベルトがプーリーにのりあけて、切れることが考えられますので、ていねいに合わせて下さい。

STEP No.4

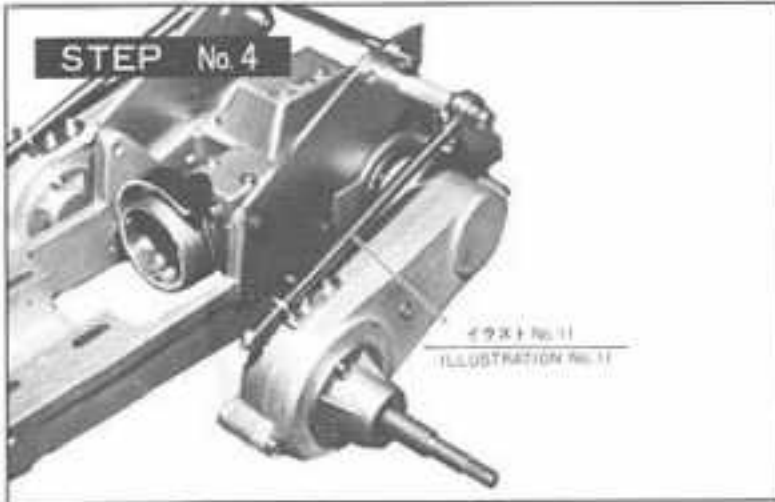
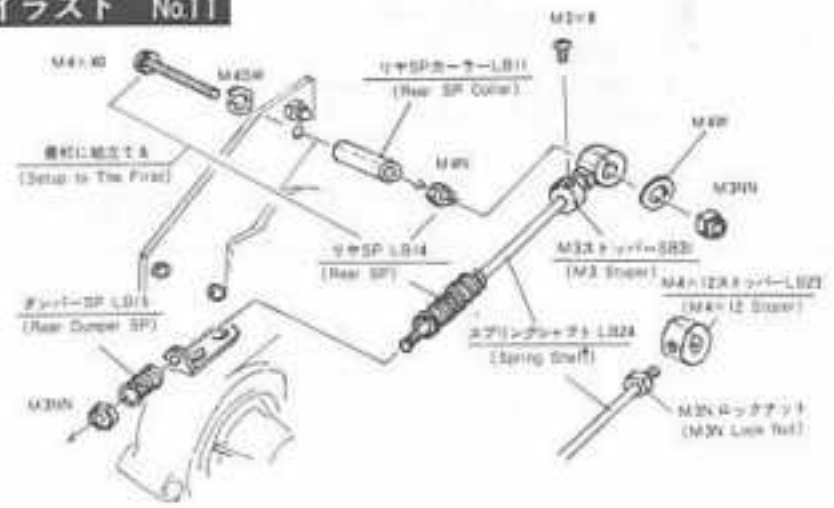


イラスト No.11



STEP No.5

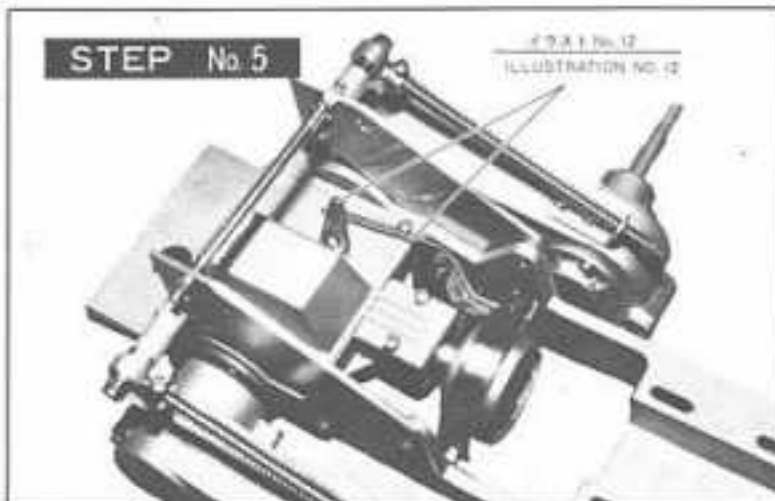
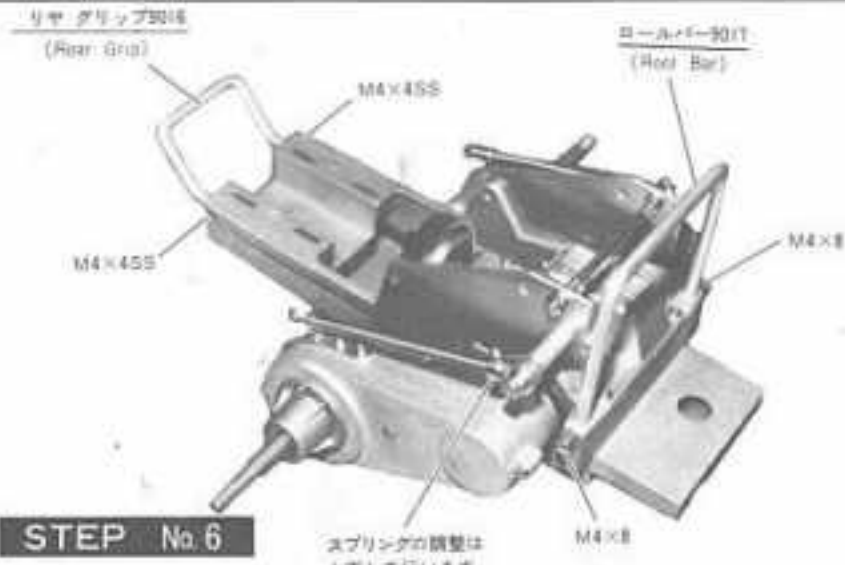
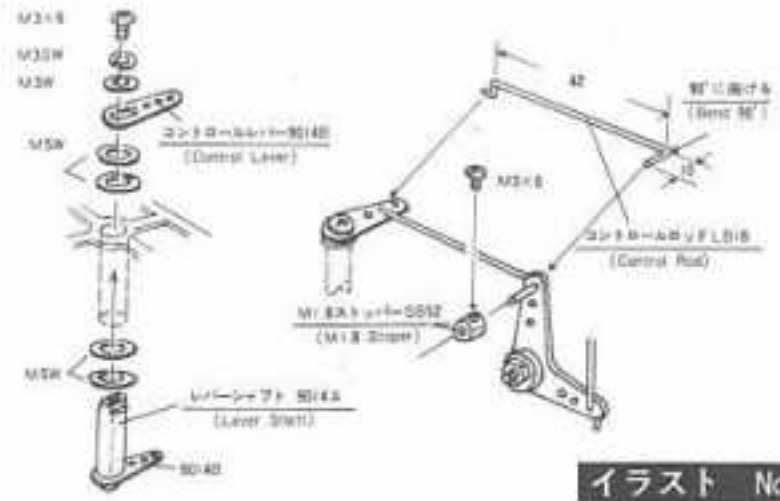


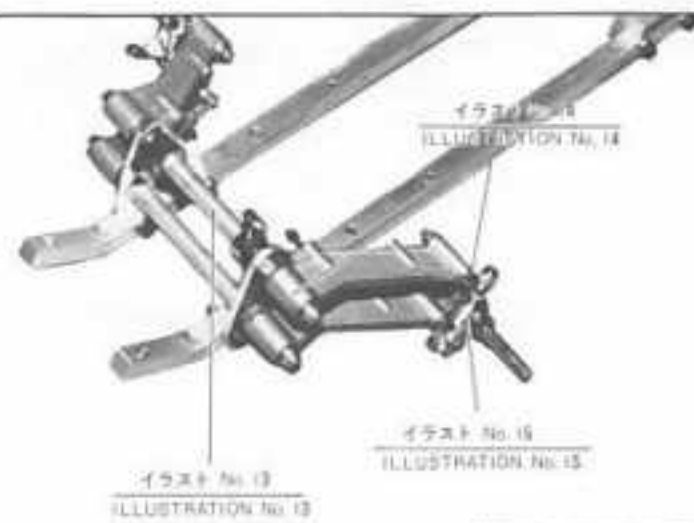
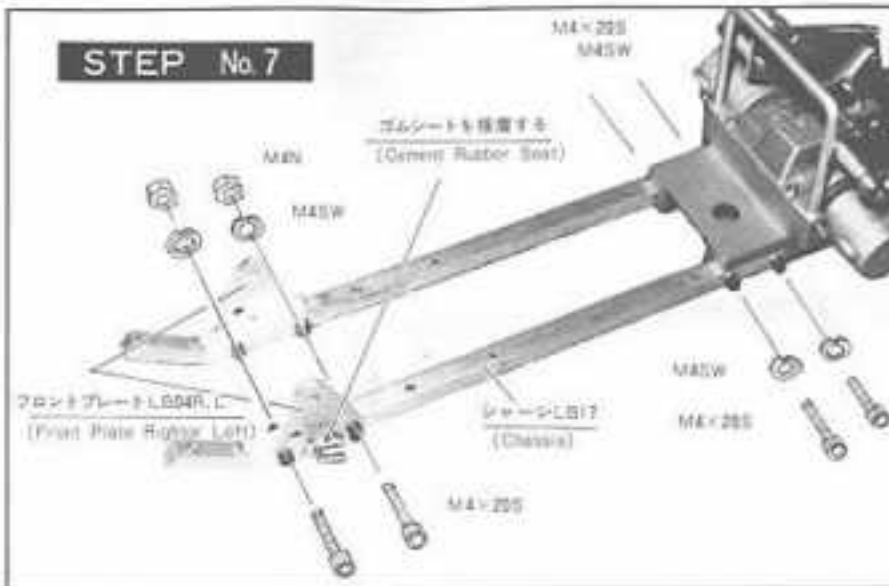
イラスト No.12



STEP No.6

スプリングの調整は
 上で行います。

STEP No.7



STEP No.8

イラスト No.13

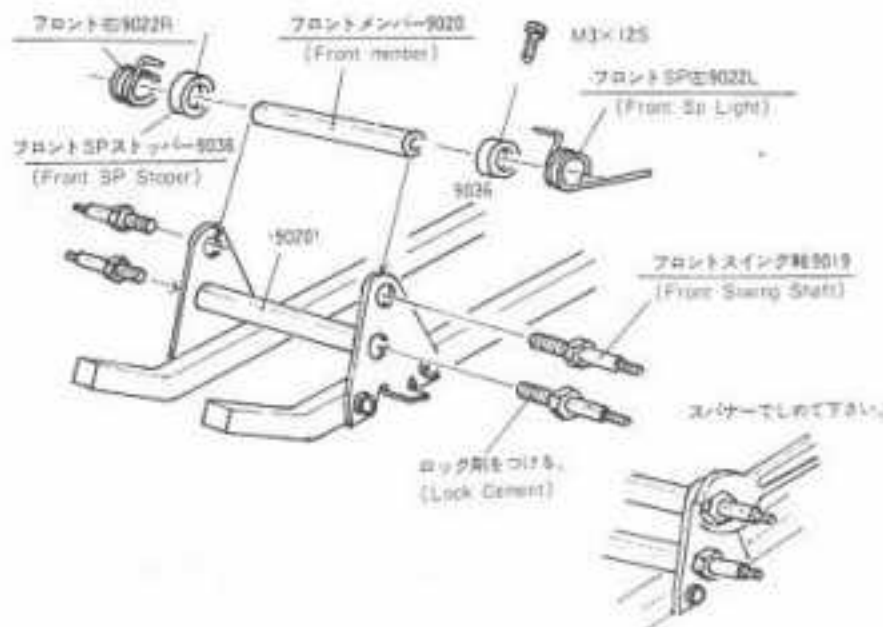
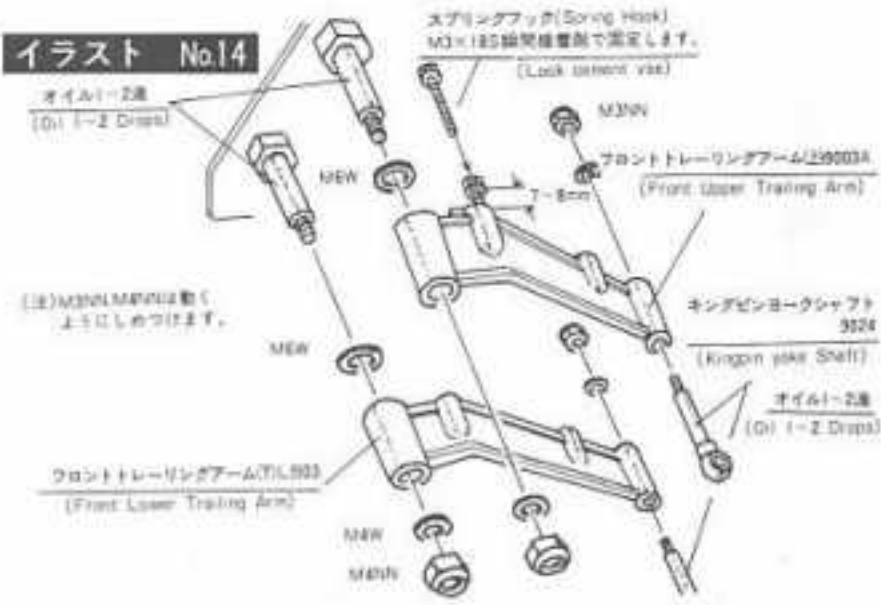


イラスト No.14



STEP No.9

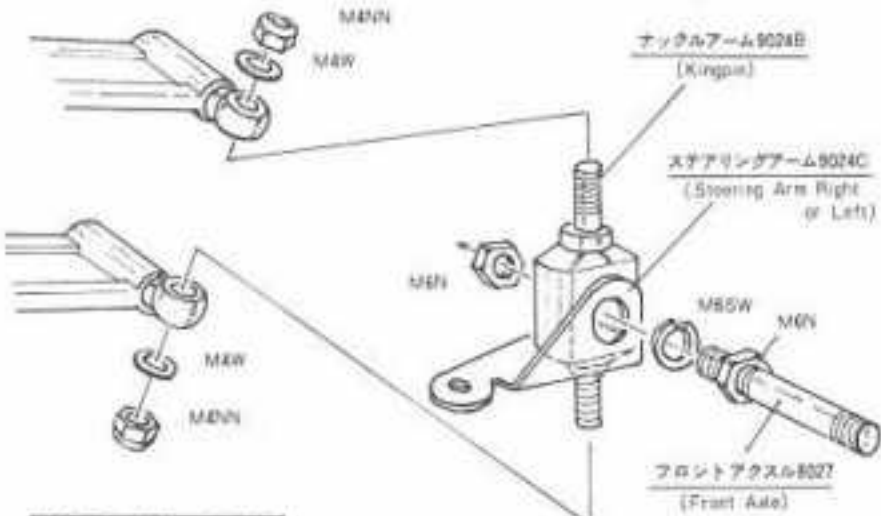
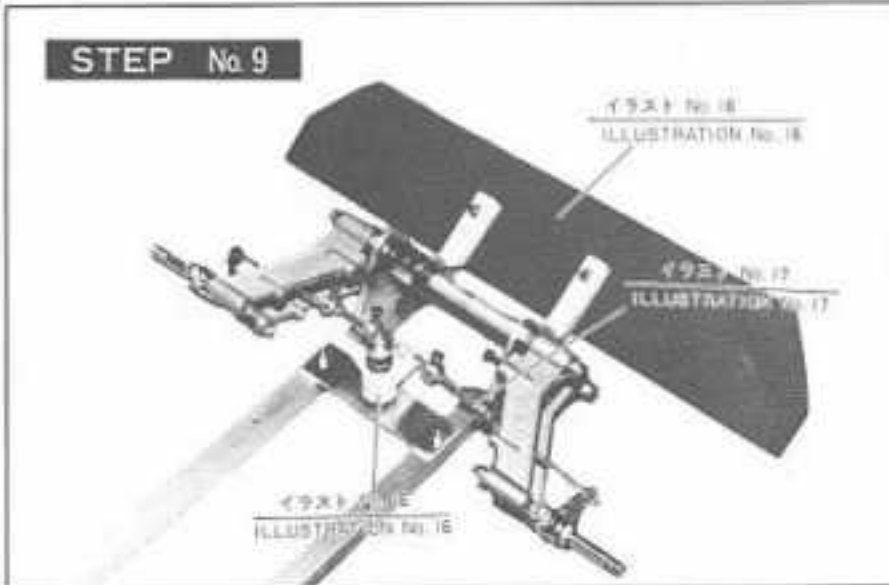


イラスト No.15

イラスト No.16

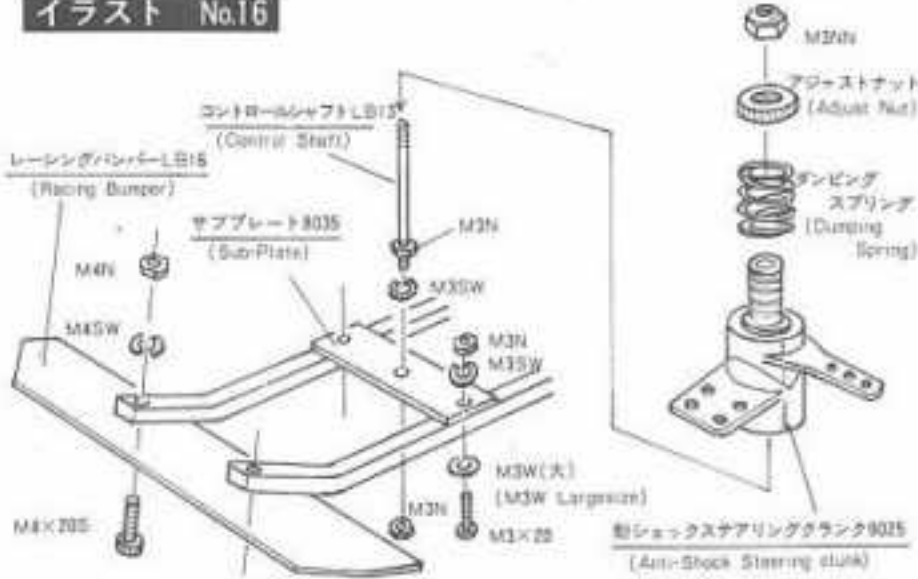
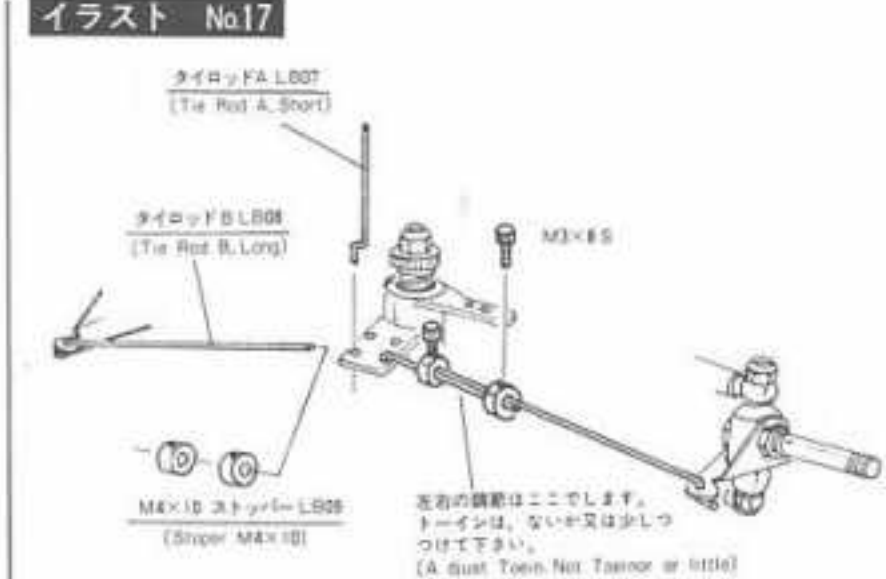


イラスト No.17



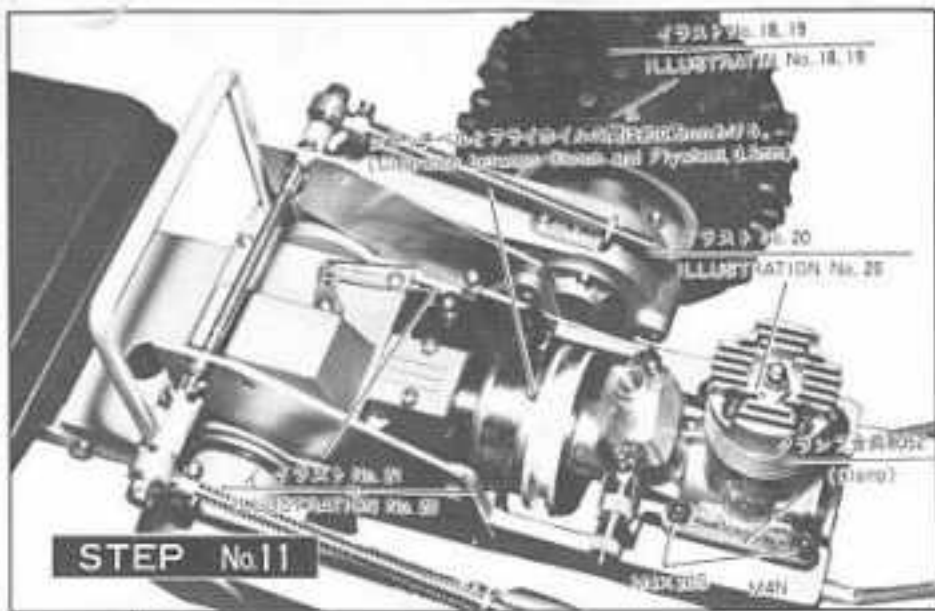
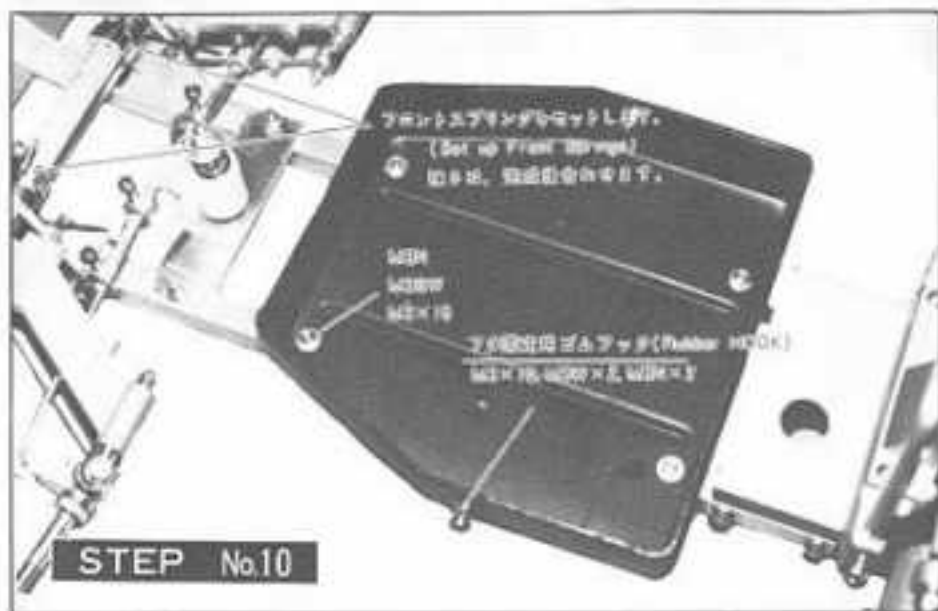


イラスト No.18

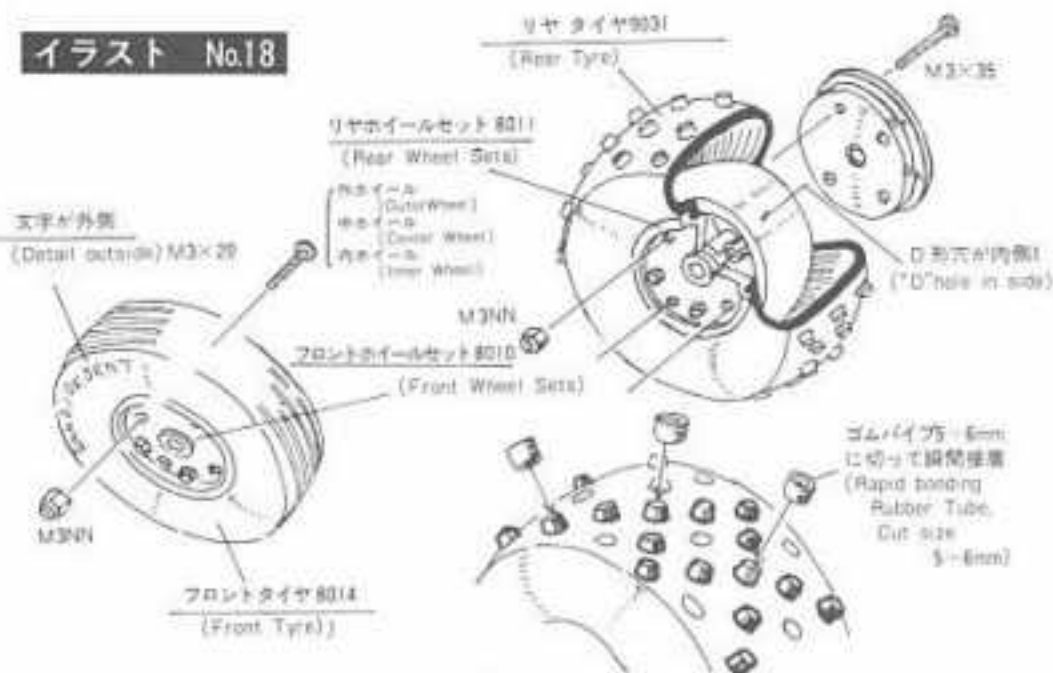
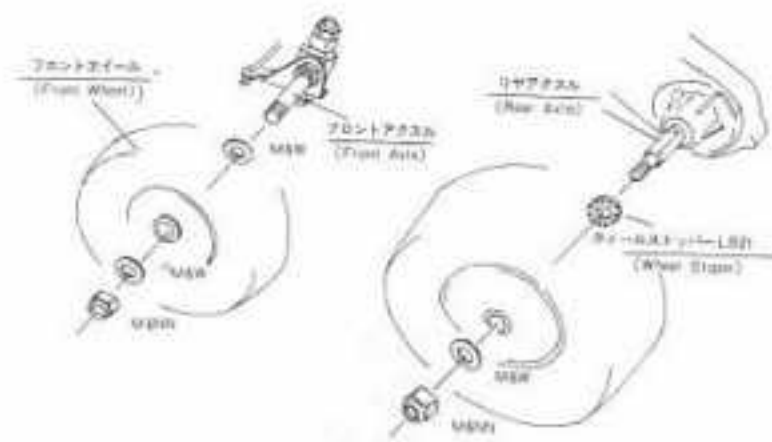


イラスト No.19



エンジン、RCメカ、フェルタンク搭載 ASSEMBLE ENGINE, RADIO & FUELTANK

イラスト No.20

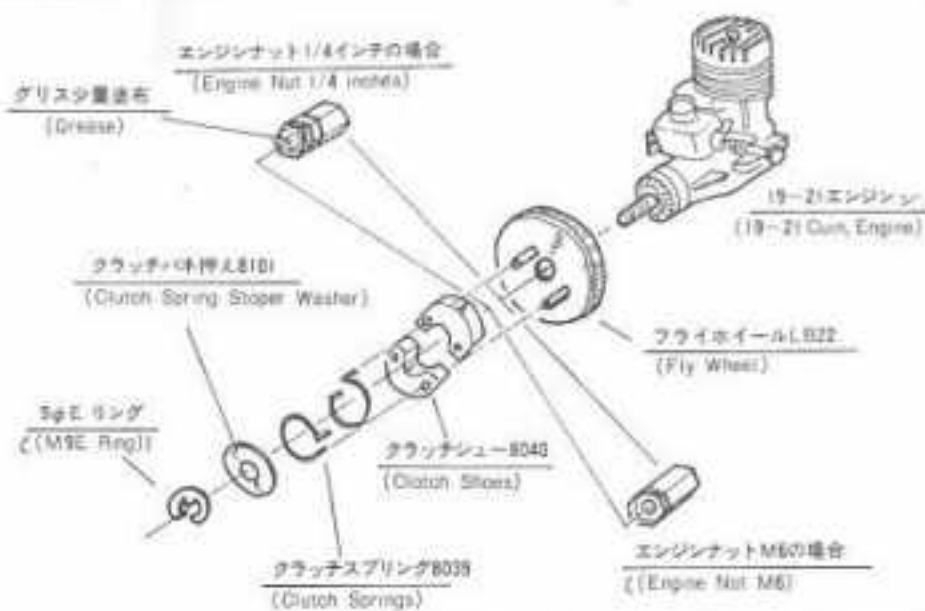


イラスト No.21

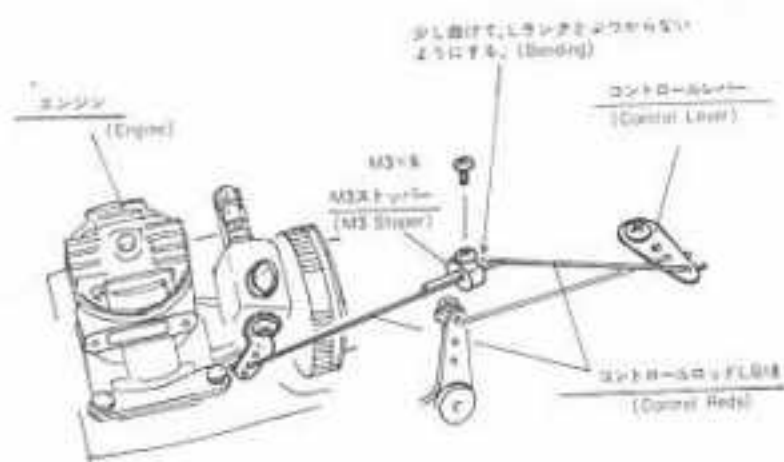
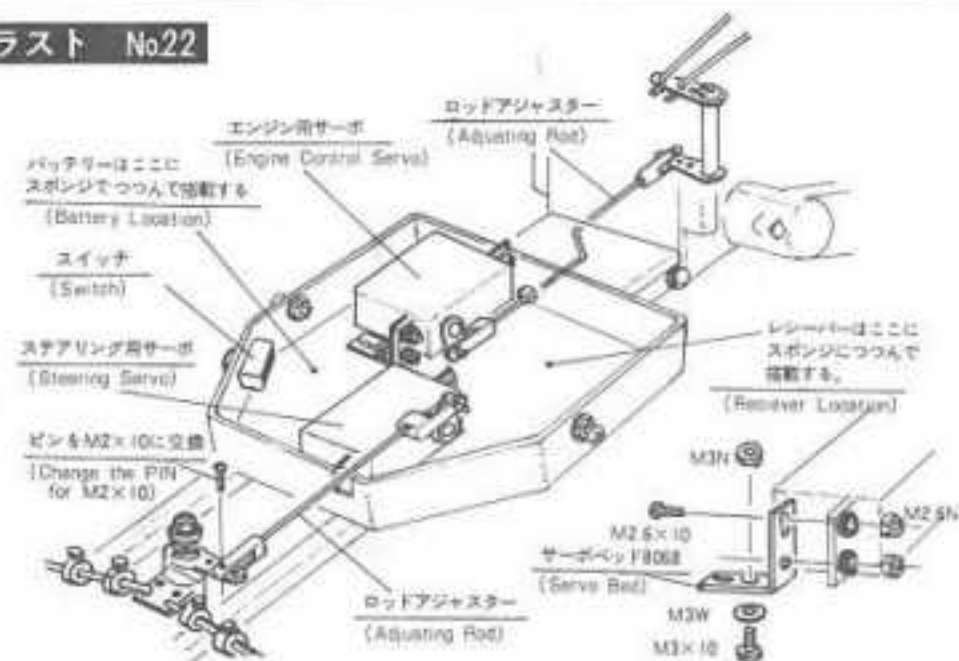


イラスト No.22



★図は、メカ搭載の一例です。次の点を確認して作業をすすめて下さい。

- ステアリングは、送信機のスティックを、右にたおしたとき、後からみて、前輪が右にまわるか。
- エンジンコントロールは、送信機のスティックを、上にたおしたとき、エンジンのスロットルが開くか。特にエンジンコントロールは、次のようになるように、サーボホーンの穴位置、エンジンのスロットルレバーの穴位置を選んで接続して下さい。
 A.スティックが、上一杯(トリム上より少し下の位置) → スロットル全開
 B.スティックが下一杯(トリム上) → スロットルアイドル位置で止っている。(スロットルストッパービスで合わせる。)
 C.スティックが下一杯(トリム少し下) → ブレーキがきく。この位置になるように、ブレーキアジャストナットで合わせる。

イラスト No23

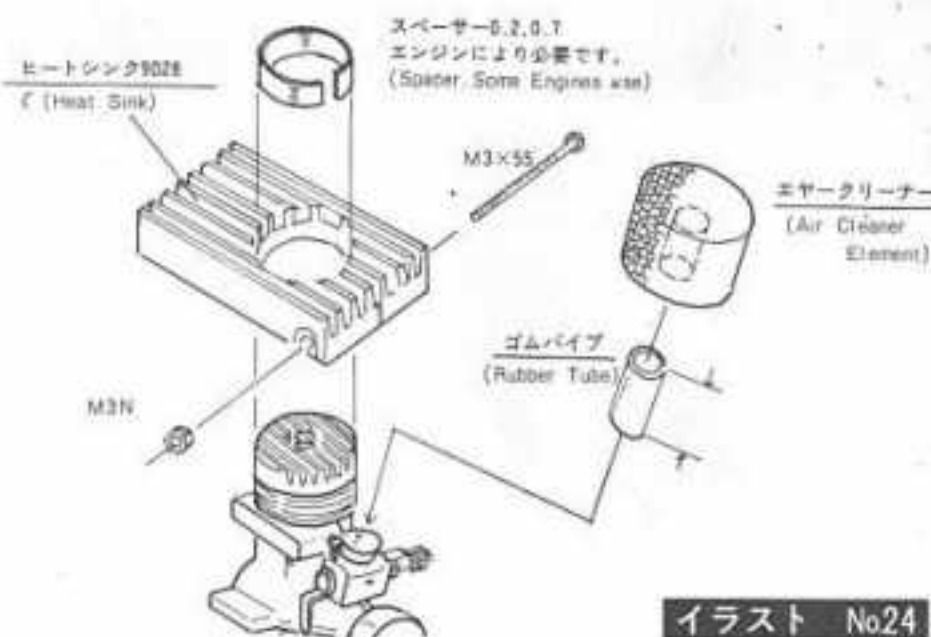
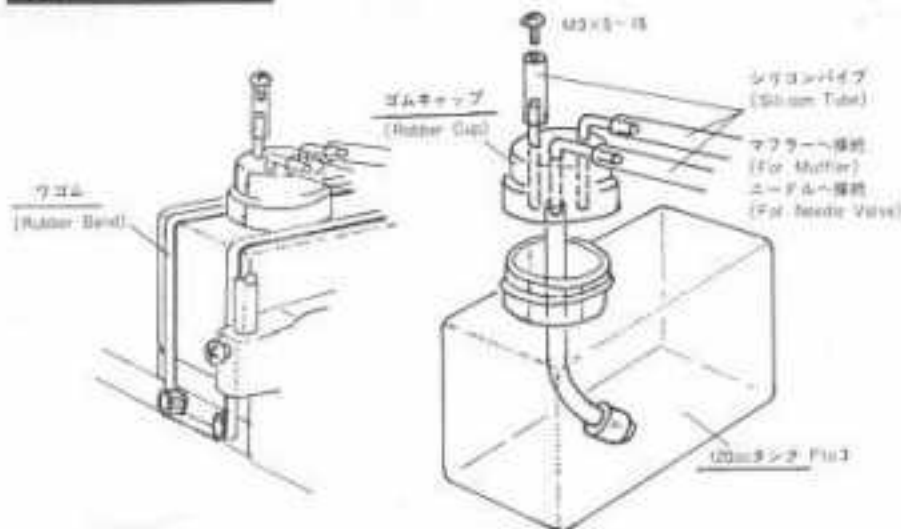


イラスト No24

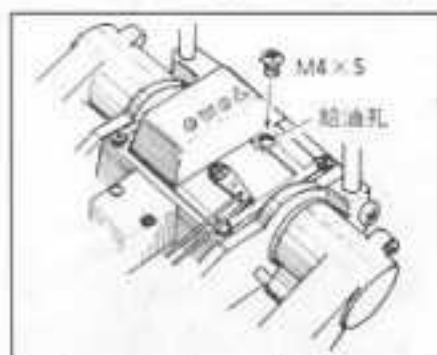
メンテナンス

[1] 走行前の給油と点検

- ①ミッションへ、5-6ccのオイル(モーターオイル、マシン油など)を給油して下さい。M4×6で役をします。オイルはベアリング部より横にした場合流れまゝです。これは完全なオイルシールを施した場合抵抗が大きくなりすぎるためです。流れた場合は少し補給して下さい。
- ②ビスナットの締め忘れがないかよく調べましょう。意外とあるものです。
- ③電池は新しいのと交換しましょう。なれないときは調整などで消耗しています。
- ④送信機のスティックの動きと、ステアリング、スロットルの動きが一致しているか調べてみましょう。
- ⑤スターターにゴムリングをはめます。
- ⑥ブースター電池は大丈夫でしょうか、確認しましょう。
- ⑦プラグは切れていないか確認しましょう。
- ⑧スターター用バッテリーも使えるか調べておきます。
- ⑨工具、パーツなど忘れていないか確認しましょう。

[2] エンジン調整

- ①燃料タンクに燃料を入れます。ニトロ10%以上がよい結果を生みます。
- ②ニードルまで燃料がいったいるか確認して下さい。もしきていないときは、車の前を高くして燃料をみちびいて下さい。キャブに流れこみすぎないようにしましょう。
- ③送受信機のスイッチを入れ、スロットルをアイドリングより少し高めにします。
- ④プラグをヒートします。
- ⑤スターターの回転方向をたしかめ、左手でリヤグリップをもって後をもちあげ、下からスターターのゴムリングをフライホイールにおしつけてエンジンをまわす。エンジンのブレイクインとキャブの調整が適切で燃料がきていれば、1-5秒位でエンジンは始動します。一寸したコツが必要ですから充分に練習をつんで下さい。
- ⑥ベンチ運転より、ややニードルを開いて混合気が濃い状態で走らせながら、少しずつニードルを合わせて、オーバーヒートせず、スムーズに吹きあがり、アイドリングが定安するようにします。これで燃料、プラグを交換しないかぎり2-5駒位のニードル微調整ですみます。ニードルは、あまりグルグルまわさないようにして下さい。



[3] サスペンション、タイヤ調整

- ①バネレートは、走らせてみて微調整を行って下さい。はねすぎようなら値すぎです。それも、前か後がよく観察して調整して下さい。
- ②リヤタイヤは走行路面に合わせてイボの数を減らし、イボの接地圧調整ができるように、全周で120個ついています。一般に、やわらかい路面ではイボは多く、かたくなるほどイボを減らせばよいのです。ただし、未舗装の場合であり、舗装路の場合多い方がスムーズです。
1個のタイヤで、全路面にマッチングさせることは不可能ですから、路面に合わせたタイヤを数種作られることをおすすめします。
- ③タイヤのチェーンは、走行路面に合わせて、パターン、ゴムパイプ、スパイクの位置、数をかえてみて下さい。

[4] 走行後の整備

- ①ボディをはずし、砂・泥などをグローブクリーナーや霧吹きに入れたアルコールなどできれいにふきとばして下さい。
- ②布でふきとって下さい。
- ③フロントキングピン、トレーリングアーム軸まわりに一週ずつ給油して下さい。あとは給油不要です。
- ④ネジのゆるみ、脱落を点検します。
- ⑤エアークリーナエレメントをよく洗い乾燥させてとりつけます。エレメントは早目にとりかえた方が良いでしょう。
- ⑥タイヤは、特に汚れがひどいときは、はずして水洗いします。

[5] 補修パーツ

補修パーツは説明書から部品名、番号を確認して、部品名及番号を明記して御注文下さい。さもないと、違った部品が届く場合があります。是非守って下さい。

★アフターサービス

品質管理には万全を期していますが、万一製造上の不備による部品が発見された場合には、そのままの状態でも部品を御返送下さい。責任をもって、交換もしくは修理して御送りいたします。不必要な分解もしくは改造を施された場合、保証の対象とならないことがありますので御了承下さい。

★補修パーツ

補修パーツは別表パーツ表の通りです。パーツは、お求めいただいた模型店で御購入下さい。もし入手困難な場合は部品名、部品番号、数量、住所、氏名を明記され、部品代に送料500円同封の上、東横株式会社サービス係まで御送付下さい。

東横株式会社 サービス係

〒101 東京都千代田区神田須田町2丁目17-3 TEL (03) 253-7873

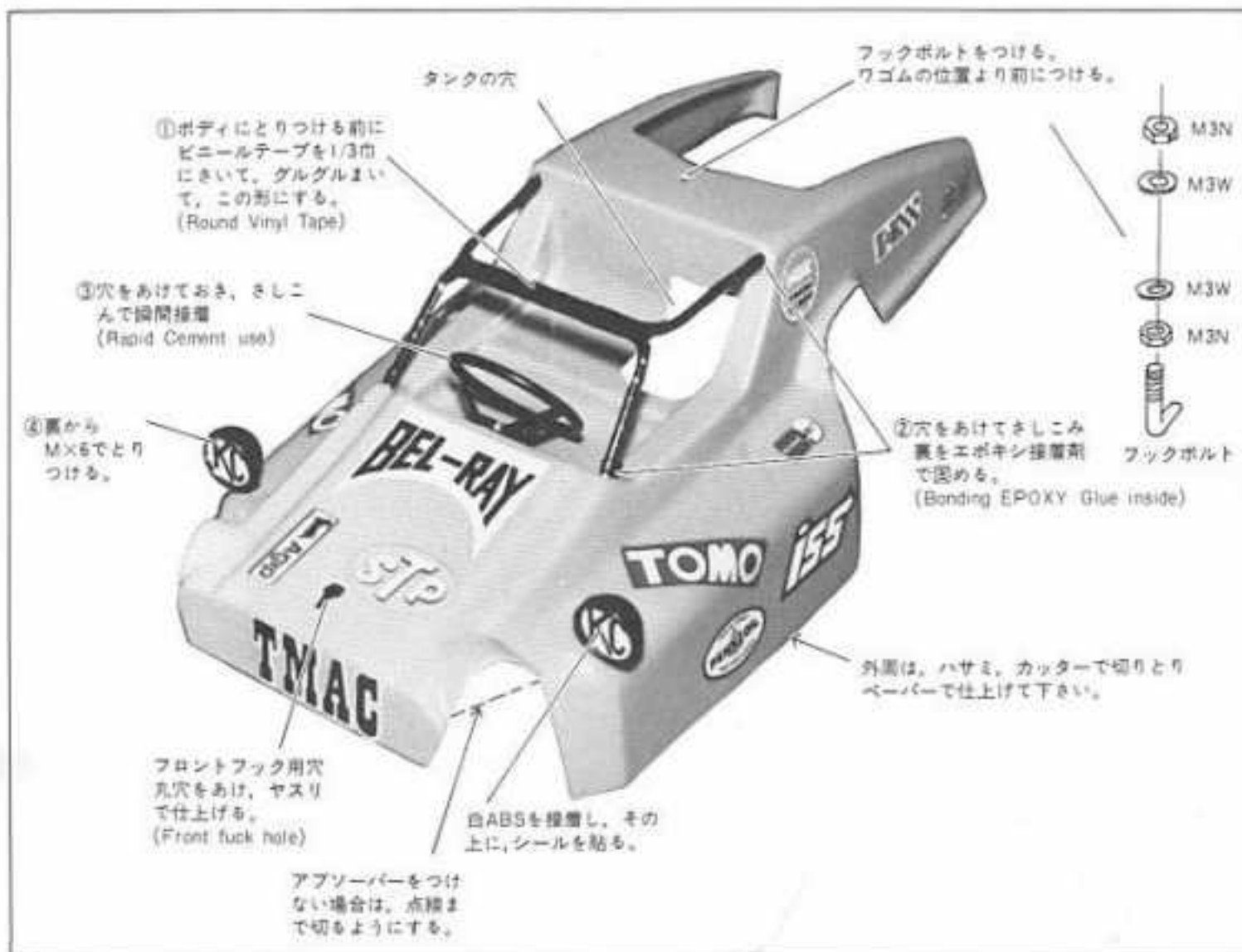
★オプションパーツ

オプションパーツは、弊社広告に掲載いたします。発売後パーツ表に記載いたします。入手方法は、補修パーツと同様に御購入下さい。尚オプションパーツは限定生産のため品切れの場合がございますので、承じ御予約いただくか、品切れの際は御了承下さい。

TOMO

NO. 17-3, 2CHOME, SUDACHO, KANDA, CHIYODAK, TOKYO, JAPAN

ループスバハは、カラー ABS 製ボディですから塗装不要で、切りぬき、パーツをとりつけ、シールを貼るだけで、ダイナミックボディが短時間で、容易に完成します。

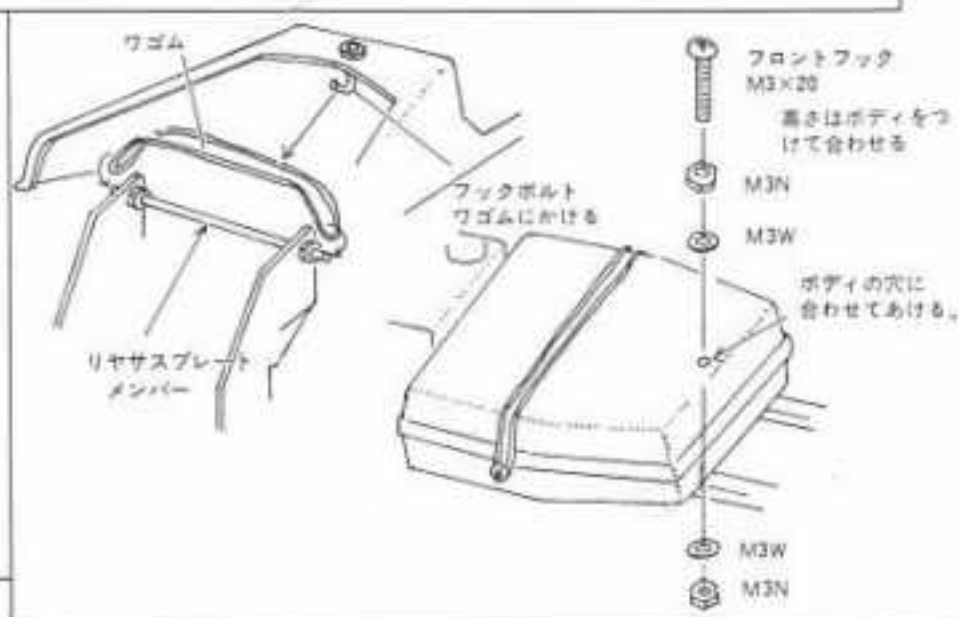


◀ABS成形ボディを仕上げます。ABSは工作性がよいですから簡単に切りぬけます。

- 大体ハサミで切ることができ細部はカッターを数回入れれば、きれいに切れます。切り口は、金属の平ヤスリ、丸ヤスリで仕上げ、ペーパーでフィニッシュします。
- 塗装される場合には、模型店で御相談下さい。

▶ボディのシャーシへのとりつけ方は、前はメカボックスにとりつけたビスの頭にひっかけ、後はフックをワゴムにかける確実簡単な方法です。

●ボディが完成したら、ボディをシャーシの上ののせて位置を決めて右図の作業をして下さい。



▶完成したボディを取りつけます。

●写真の車は、オプションのショックアブソーバーをとりつけてあります。写真はタイプIIをタンクレスで取つけたものです。

●ショックアブソーバーは凹凸の激しい路面の走行に技師の威力を発揮しますから、装備をおすすめします。



●オプション ショックアブソーバーを装備しています。無改造で取り付けられます。

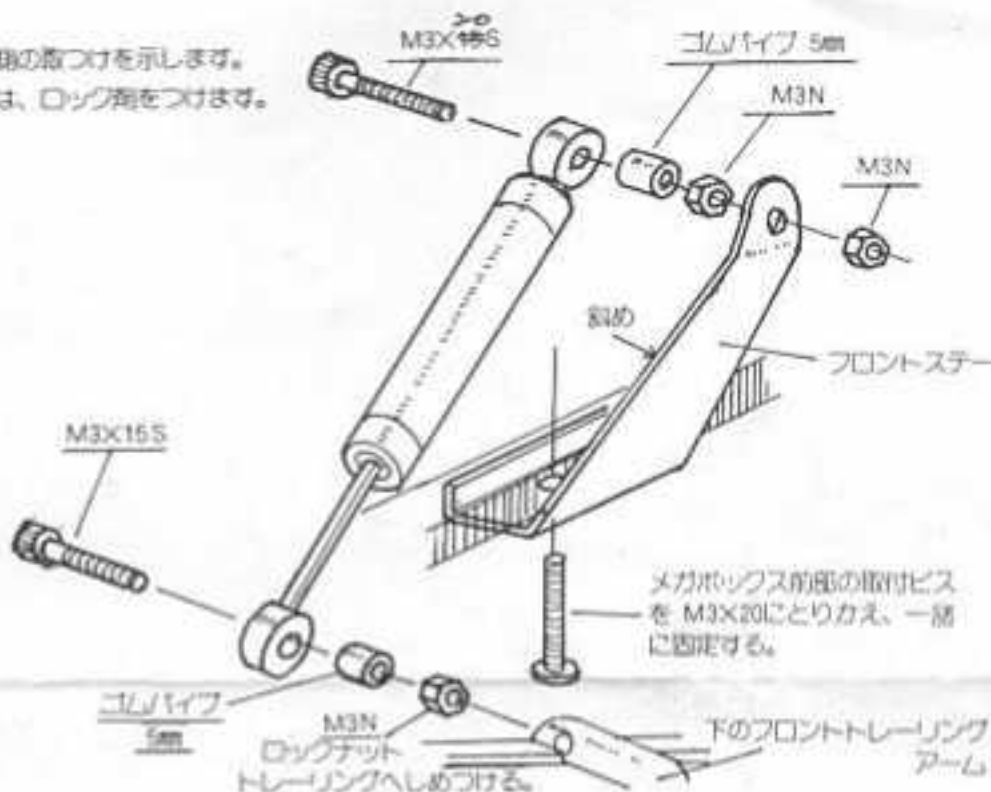
LUPUS BUGGY

TYPE I ショックアブソーバー

ショックアブソーバーは、サスペンションのリアクションを、すみやかに吸収し、シャーシの安定を保ち、走行性能の向上を計れます。ルーバスバギーは、タイプIが標準ですが、オイルリザーブタンクの搭載を工夫すれば、タイプIIも搭載することも可能です。タイプIは、無改造で取付けられます。

- ダンピングレートの設定は、オイル粘度とオイル量で行います。オイルはSオイルを標準としますが、灯油を加えて行くことにより粘度が低くなり、レートが小さくなります。オイルはSオイル1、灯油1を目安にして調整して下さい。オイルの量は1.5~2ccでよく、多いときは、ダンピングストロークが長く、少いときは短くなります。
給油孔はM3×5のビス頭に、Oリングを瞬間接着剤で接着してから、かるくねじこんでふさいで下さい。又、調整中は孔を指でふさいで調整して下さい。

- ☆ 図は左側の取付けを示します。
- ☆ ビスには、ロック剤をつけます。

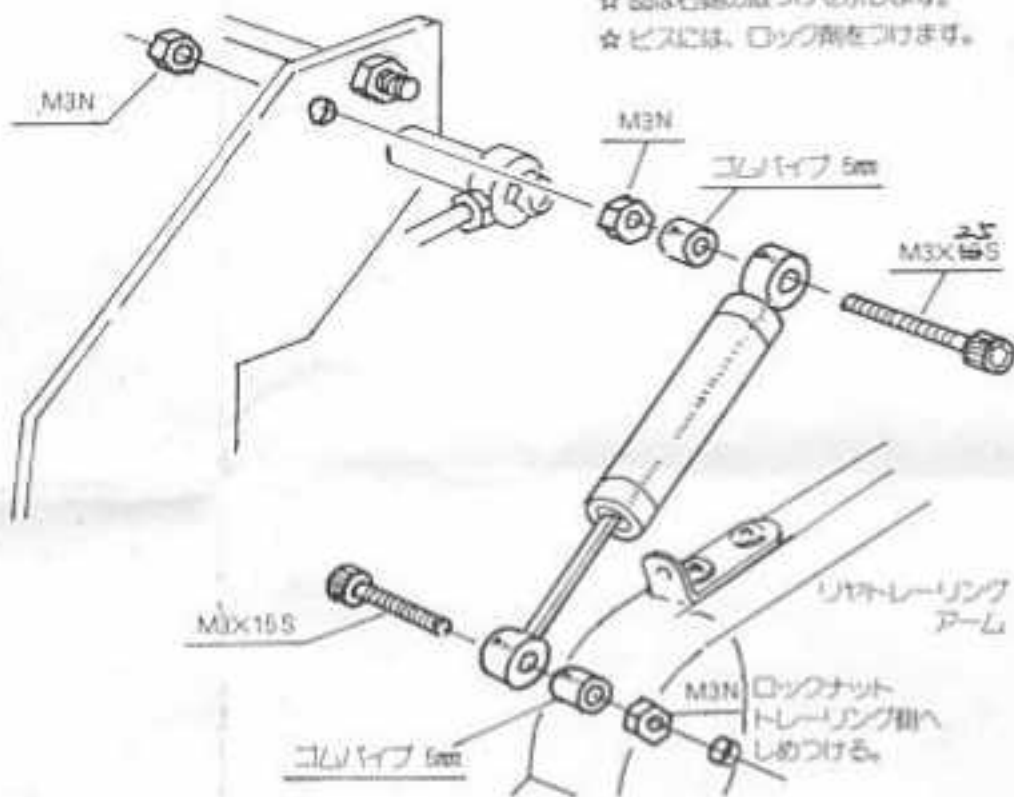


○ フロントへの取付

フロントは、メカボックス前後取付ビスをM3×20にとりかえて、ステアーを一括にとりつけ図のようにショックアブソーバーをとりつけて下さい。

○ リヤへの取付

リヤは、ステーを用いず、リヤサスペンションプレートに直にとりつけられます。



- ☆ 図は右側の取付けを示します。
- ☆ ビスには、ロック剤をつけます。